

[年度] 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] 「きぬむすめ」の高品質安定生産のための移植、刈取り適期

[要約] 「きぬむすめ」を6月上旬に移植することで、登熟期前半（出穂～出穂20日後）が夏期の高温を回避でき、外観品質、収量が安定して高い。刈取りを成熟期前後4日程度の間に行うと、品質が優れ、収量が多い。

[キーワード] 「きぬむすめ」、移植時期、刈取り適期、玄米品質

[担当機関名] 農業試験場 栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[専門分野] 作物

[分類] 普及

[背景・ねらい]

「きぬむすめ」は、2009年に県奨励品種に採用され、登熟期の高温障害による品質低下を回避できる高品質、良食味品種であり、高品質安定生産に適した移植、刈取り時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 移植時期が早いほど出穂期、成熟期が早い(表1)。
2. 5月21日移植では、登熟期前半(出穂～出穂20日後)の平均気温が高く、外観品質が劣る(表2)。一方、6月上旬移植では、登熟期前半の平均気温がやや低く、整粒率が高く、収量が多い。また、6月下旬移植では、登熟期前半の平均気温は低いが、日照時間が短く、粳数過多となり、収量が少なく、玄米外観品質が低い(表1,2)。
3. 成熟期の前後4日程度の間は、収量が多く、玄米外観品質が高い(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「きぬむすめ」は和歌山北中部で普及を行っており、これらの地域での指標となる。
2. 農業試験場での試験結果である。

[具体的データ]

表1 移植時期が生育、収量および収量構成要素に及ぼす影響(2013)

移植時期	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	登熟日数 (日)	精玄米重 (kg/a)	m ² あたり 籾数 (千粒/m ²)
5月21日	8.07	9.13	37	54.1	25.8
6月5日	8.14	9.20	37	61.3	30.1
6月25日	8.23	10.02	40	55.2	32.1

注) 移植はペーパーポット手植 植付本数は5本/株。
 栽植密度は18.5株/m² (条間30cm×株間18cm)。
 施肥量は窒素成分で10kg/10a(基肥5kg、追肥2.5×2回)施用。
 成熟期は中庸な穂の青籾数が10%程度のとき。
 精玄米重および収量構成要素における重量は水分15%換算値。
 精玄米重は1.8mmで篩い選した数値。

表2 移植時期別の玄米品質と登熟前半(出穂から20日)の気温と日照時間(2013)

移植時期	整粒率 (%)	未熟粒率 (%)	登熟前半の平均気温と日照時間	
			平均気温 (°C)	日照時間 (h)
5月21日	62.0	31.7	28.1	188.4
6月5日	71.1	25.2	26.8	139.3
6月25日	65.9	33.2	24.6	104.4

注) 整粒率、未熟粒率は静岡製機ES-1000により測定。
 気温、日照時間は農業試験場測定値。

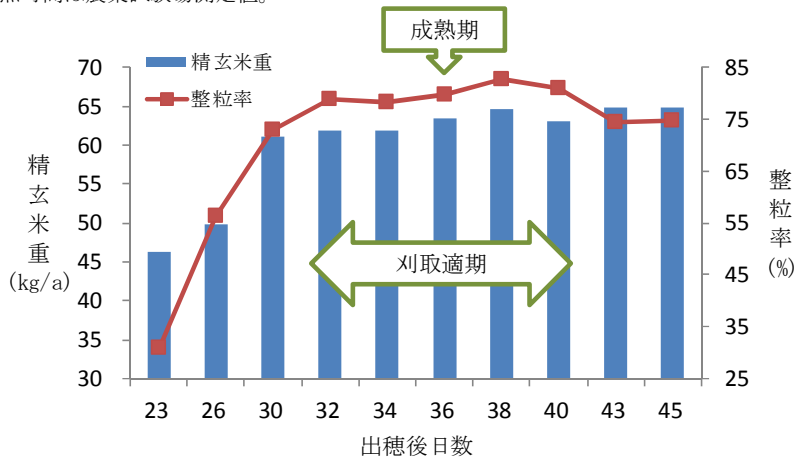


図1 刈取時期が収量及び品質に及ぼす影響

注) 2012年6月14日移植、ペーパーポット手植え、植付け本数3本/株、栽植密度16株/m²。
 緩効性肥料を窒素成分8kg/10aを施用、出穂期は8月19日。
 精玄米重は1.8mmで篩い選した水分15%換算値。
 整粒率は穀粒判別器 静岡製機ES-1000により測定。

[その他]

研究課題名：水稲新品種‘きぬむすめ’の高品質安定栽培技術の開発

予算区分：県単

研究期間：平成23～25年

研究担当者：宮井良介、川村和史

発表論文等：水稲品種‘きぬむすめ’の移植時期、施肥管理、刈取時期が収量および品質に及ぼす影響、和歌山県農林水産試験研究機関研究報告第3号、(印刷中)

ホームページ掲載の可否：可